A heart of solidarity in Michinoku

こころ・なないろ

カリタスみちのく便り

第２号　2022 年 3 月 11 日発行
編集・発行　カリタスみちのく
〒987-0901
宮城県登米市東和町米川字町裏 84
E-mail：cmichinoku@gmail.com

東日本大震災と福島第一原発の事故から丸 11 年が経ちました。犠牲になられたすべての方、今もなお、困難の中におられる方々のためにお祈りします。コロナ禍に阻まれて、被災地へ足を運ぶことができない、集まることができない、動けないもどかしさを感じておられる方々も多いことと思います。カリタスみちのくは、これからも被災地の現状をお伝えし、ボランティアや支援活動に取り組む仲間たちをつなぎ続けていきます。

今号は、カトリック釜石教会の憩いの場「ふぃりあ」を引き継いだ神父様とシスターの思い、この 3 月で被災者支援活動を終了する福島の松木町教会「愛の支援グループ」からのメッセージ、11 年目を迎えたみちのくの仲間たちからのメッセージ、3 月 12 日に開催したカリタスみちのくの集い特別版「11 年目の分かち合い～ボランティアさん大集合～」の様子など盛りだくさんの内容となっています。ぜひ、じっくりとご覧ください。

～震災から11年　各地で祈りがささげられました～

カトリック釜石教会　11 年目の「ふぃりあ」

フリースペース「ふぃりあ」は、多くの住民さんから愛されて１１年目の活動を継続しています。今まで継続してこられたのは、多くの支援者やボランティアさんのおかげです。

そこを引き継ぐ形で２０２１年の３月より、新たに聖母訪問会の２人のシスターを迎えました。神父とシスターズによる新しい「ふぃりあ」について、３人にうかがいました。

「ふぃりあ」、愛のひろばの風景

イエズス会　堀江節郎神父

小さな坂道をのぼると、「ふぃりあ」の入り口の横に、白い等身大の聖母像が立っています。教会堂建立の時からそこにあり、３．１１には、車や残骸などを運んできた波が、像の足下で止まりました。人はまずここで手をあわせ、中に入ります。ここで見えるキリストさんは、母に抱っこの幼子ですし、中の窓ぎわにも、茶色の木彫りの聖母像があり、よくよく見ると、祈る手の中に眠っている小さな赤児です。「ふぃりあ」のサロンに入ると「あら、いらっしゃい、お元気でしたか」と優しいお声。その声は、てるさん、きいさん、と呼ばれるシスターさんたちです。供される熱いコーヒーの香りが漂い、なんとも言えない幸福感に浸ります。ここに来る人はだれでも愛され、ともだちです。

「ふぃりあ」のひろばの、うれしい風景です。

カトリック釜石教会「ふぃりあ」のボランティア活動について

聖母訪問会　シスター藤原てる

私は２０２１年４月から、震災復興支援として「ふぃりあ」でのサロン活動ボランティアをしています。大震災後、釜石の町の復興は、ハード面での完了は見えてきましたが、いまなお、深い闇から抜け出さないまま老いてゆく一人暮らしの方たち、病人を抱えている人たちが、出会いの喜びを求めて集まって来られます。自由自在に誰もが参加できる。個別性を尊重し、ざっくばらんに交わることを大切にしています。私は、キリストの愛を知らない人にその愛を具体的に分かち、ともになりたいと願っています。コロナ禍で歌を歌う事は出来ませんが、季節ごとの催しをする際には、準備から後片付けまで助け合って積極的に行われ、喜びに包まれます。これは、カリタス釜石の１０年間の歩みの中で養われた共同体の賜物です。今後、地域の人々に波及していくことを願っています。

釜石教会のお茶っこサロン「ふぃりあ」に呼ばれて

聖母訪問会　シスター佐藤紀伊

釜石教会のお茶っこサロン「ふぃりあ」のボランティアに呼ばれて舞鶴より釜石に来て、はや一年が経とうとしています。あちこち日本中を巡り歩いてきましたが、このような不思議な広場は初めてです。居心地の良い「ご勝手広場」です。自分の好きなように時間を過ごし、新聞、雑誌、コーヒー、お菓子も出る。二階は大きな聖堂、疲れれば一人でゆっくりと…。全国からお便りや差し入れもあり、この 10 年間のボランティアにいらした方々の来訪もしばしば。喜びの再会のひと時にも出会わせていただく「愛の広場」です。毎日来てくださる方々は

地域のお一人暮らしの方や、さまざまな痛みや苦しみを背負いつつ前向きに生きようとしておられる、オール未信者の方々…。男性陣も多い…。こちらが励まされます。今までこの 10 年間支え続けてくださったスタッフや神父様の愛の奉仕の実りでしょう。こんな広場が全国の教会にあったら、どんなに喜ばれることでしょうと毎日思いながら過ごしております。

すべてに感謝しながら「愛のはしご」をたたむ・・・。

松木町教会「愛の支援グループ」代表　鈴木　キミ子

無心で・・・

目にも見えず、匂いもしない危険物。それが福島原発事故による放射能の恐怖。その様な中で、被災地や避難されている人たちのところへ無心で体が動けた。それは、信仰の恵みをいただいている一人一人の心の繋がりを、神様が動かしてくださったのだと思う。

スタートは、教会を避難所とできるように毛布を準備することから。次に、被災地へ向かい、流出物写真洗浄作業奉仕。そして、福島市の避難所への支援物資の運搬作業から炊き出しの手伝い。

あの震災の年はいつまでも寒く、その頃の状況から、「心のケア」の必要性を感じ、「もてなしの傾聴」として温かな一碗の抹茶と野の花（茶花）をロビーに飾り、そっと側にいるだけだったが、避難所の皆さんはその「ふれあい茶の湯」でほっこりとなられポツリポツリと言葉が出るようになった。支援活動も傾聴も全く経験のない私たち（松木町教会の被災者支援活動は、当時の 2 年前に自主活動として設立されていた「愛の支援グループ」と教会の皆さんの祈りと協力）でしたが、無心で小さな手をつなぎあっていることに神様は勇気と恵みをくださった。思えば、さまざまなことをできたかもしれないが、できたことは神様の手となれた喜びとなって。

常に、こころしていた「言葉」がある。「大切なのは　どれだけ　たくさんのことをしたかではなく　どれだけ心をこめたかです」　　マザー・テレサの言葉より

愛のはしご

避難所が閉鎖されて、9 月からは、相馬の仮設住宅や福島市内の仮設住宅へと活動が移っていった。ここから 10 年間活動できたのは、カリタスジャパン、CTVC（カトリック東京ボランティアセンター）の大きな援助があった。改めて心から感謝。

松木町教会の皆さんのお祈りと励まし、ご協力はもちろん。CTVC スタッフの熱意と心温まる活動により、県外のボランティアさんには多くの励ましと力をいただけた。特に、福島市内の宮代仮設（浪江町民入居）では、仮設住民の皆さんが快く私たちを受け入れてくださり、互いに支え合うことができ、カリタスの「はしご」は、「愛のはしご」へと紡がれていった。

同じ町民でも、互いに名前も顔も知らない同士（高齢者が多く、子どもが全くいない）だったが、楽しい昼食会（CTVC 提案）だったり、カラオケ（CTVC より）、年中行事は準備から一緒に。「赤ちょうちん宮代」（昼は参加できない方のための夕餉の会）だったりと集いを重ねていくうちに笑顔もみられるようになった。みんなひとときでも笑顔になれるようにと、カリタスの私たちは笑顔を届けていたはずが、自分たちが、かえって仮設の皆さんから元気をもらえた。それは、仮設の中で互いに励まし合って困難を乗り越えようという姿から。そして、「愛のはしご」の繋がりは、年を重ねるごとに大切な「はしご」となっていった。

コロナ禍の中で

宮代仮設が2017年12月に閉鎖されてからも2019年9月までは、 年に2～3回の集いができた（コスモス宮代の集い）。松木町教会での夏まつりや花見、また、ふる里浪江町での花見、敬老会など。しかし、2020年からは、新型コロナウイルス感染防止のため集いなどは自粛せざるを得なくなった。コロナが静かになっているときには、戸別訪問（特に後期高齢者の多く移住されている南相馬へ）に伺ったが、思うようにはできなかった。2015年から（仮設自治会解散に伴う）発行継続していた「カリタスからのおたより」が、このようなときだからこそコスモス宮代の皆さんと繋がれる唯一の「愛のはしご」となっていった。

♪神様といつも一緒♪

私たちが仮設へ出発するときには、いつも司祭の派遣の祝福があった。

3・11大震災、大津波、福島原発事故という日常を奪われた出来事。コロナ禍という暗いトンネルからなかなか光が見えてこないとき。あるいは、思ってもいなかった事故や病気になったとき。神様は、これらのことを通して、私たちに慈しみと恵みをくださっている。全てを受け入れ、全てに感謝できて、信仰も深められた大切な時間であった・・・。

――いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。

どんなことにも感謝しなさい。――――テサロニケⅠ　5:16～18

さまざまな災害に遭ったこの11年間の中で、このみ言葉が深く心に入り考えるようになってきたと思う。コスモス宮代の皆さんとカリタスの私たちは、これからも「福島に共に生きつづける」。

おわりに

松木町教会の大切な仲間がいて繋がり続けられて、教会の皆に支えられて大きな輪になれた。3月で「愛のはしご」が静かに静かにたたまれるが、たとえ離れていても愛の心は繋がり続けられると思う。松木町教会からかけられた「愛のはしご」が「希望の風」「光」となっていくことを祈っている。　　感謝!!

カリタスみちのくの輪　仲間たちの“今”をお伝えします

岩手・カリタスみやこ

１０年目の節目の昨年は、どこがどう変化したか、復興の具合を中心に考えていましたが、１１年目となると何を指標に考えたらいいのか、具体的にはっきりしたものも見出せずにいる自分がいます。

一昨日も知人と震災当日の話題があり、自分の行動を思い出しました。

避難場所に避難していた近くの小学校の全校生徒（５０人位）を雪のちらつく中、敷地内の空き家に招き入れ、薪ストーブで暖をとってもらい、避難所みたいにおにぎりを提供した二日間とその後のこと。その時の「今、何をしなければならないのか」との思いで精いっぱいの行動をしてきた記憶です。そして、今でも後悔していることがあります。

それは、当時、周りの人たちを支援することが中心で、車椅子生活をしていた自分の母親をなおざりにしてしまった。そのために彼女の死期を早めてしまったということです。私の話を聞いた周りの方々は「あなたのお母さんは、娘の頑張っている行動を理解していたから、大丈夫だよ！」と言ってくれますが、母が我慢してくれていたことはわかっていても、母の気持ちはどの程度だったのかは分からないままです。自分の出来ることを一生懸命頑張ったという気持ちと、自責の念が重なり達成感には程遠い気持ちです。自然災害などで家族のいのちを失った悲しみとは比べられない、別の割り切れない感情です。

そういう中で、教皇フランシスコの祈りのことばの中に、「イエスの弟子になる覚悟はあるだろうか？　真福八端のパラドックスの驚きを感じる心を持っているだろうか？　困難があってもイエスに従う喜びを感じているだろうか？　イエスの弟子たる特徴は『心の喜び』である」と記しているのに出会い、新たな心の支え、行動の支えとしての指標を得たように思います。「自分の心の喜びと、他人の心の喜びを得るため」。感謝！　（伊藤純子）

岩手・カリタス釜石

前回投稿より、秋らしい秋が来て、冬は雪も珍しい釜石でも例年以上に雪の降る冬を過ごしています。それでも季節の移り変わりはいつも通りと感じられますが、コロナ禍３年目を迎えるにあたってそれは普段では済まされない異様な世界で私たちふぃりあのメンバーも来場者の皆さんも過ごしています。

何度か感染対策のためお休みをしましたが、写真のように大きな行事であるクリスマスを皆さんで過ごすことが出来ました。感染対策を徹底しての決して今まで通りのクリスマス会ではありませんが、こうして神父様のお話を聞いたり、プレゼント交換をしたりと楽しい時間を共有する事ができて改めて地域のコミュニティとしての大事さを感じることが出来ました。当たり前のように「メリークリスマス」と祝い合い、「明けましておめでとう」と挨拶し合う素敵な空間はこれからも地域の宝です。寒さが続き、春が待ち遠しい釜石ですが、これからも来場者の皆さんと共に歩んでいける空間を作り続けていきます。

（ベース長 道又譲）

岩手・カリタス大船渡ベース

もう２年以上も続くコロナ禍の中で、活動はとても制限されていますが、その状況にあっても地域の方々に寄り添える活動を模索し、手芸サロンの材料準備、試作品作りなど、サロン活動を再開できる日のために着々と準備を進めています。また、「離れていても出来るボランティア活動」ということで始めた「絵手紙の輪」も、寄せられた作品が 900 枚を超えました。今は、心を込めて描いてくださった方々へお礼状を出す準備をしているところです。

（ベース長　菅原圭一）

宮城・一般社団法人カリタス南三陸

復興住宅でのお茶っこがお休みになってもう２年、ボランティアさんと鬼ごっこをしていた子どもたちも部活で活躍していたり、自分の将来を考え始める年齢になってきました。皆どんな大人になっていくのか楽しみです。田んぼや山仕事では、深呼吸ができる喜びを改めて皆で分かち合っています。南三陸では海の幸を頂き、登米の山の幸をお届けし、自然の恵みに感謝する暮らしの中で、地元の伝統行事に参加している若者の背中はコロナ収束後より遥か先を見据えているようでした。

（千葉道生）

宮城・カリタス石巻

「助けになりたい」「奉仕したい」と思う人々の熱意が、震災復興のニーズを支えてきました。今、被災地のニーズは震災直後とは全く違ったものになっています。それは、「心の傷」とでもいいましょうか、人々の心の奥深くに潜んでいる渇きへの支援です。出血は止まっても、傷はまだ残っています。私たちは、そうした傷を負っている人々のそばにいることが求められています。立ち直るには時間が必要です。それは忘れることとは違います。自分の体験や思いを誰かと分かち合う、それがその人の癒しに繋がるのではないでしょうか。そうした方々が来たいときにいつでも来ることができるよう、私たちはこの先もこの地にとどまり、そうした場を提供し続けていきたいと思います。

がれきの撤去や再建といった時期を過ぎた今、私たちは「心の復興」の旅の途上にあります。それは長い時間のかかる人生の歩みです。

（心の港　ミュレル・シルヴィー）

宮城・オリーブの会　宝物の思い出Ⅰ「スイセンの香り」

今年も千葉県の鴨川教会から、大量のスイセンの花が八木山に届きました。聖堂のマリア像や津波被災者の自宅の正月祝いに香りを添えています。

２０１１年１２月に初めて届いたスイセンの花は、八木山教会の祭壇を飾りました。哲ちゃんはお花の先生です。「これで祭壇の花代が節約できる」「被災地、亘理の調査費用にしよう」。おかげさまで、亘理町の旧館仮設集会所でステキな出会いがありました。スイセンの香りは、オリーブの会の原点です。

（カトリック八木山教会信徒　野田和雄）

福島・カリタス南相馬

震災から 11 年を迎えようとしていますが、南相馬を含む原発被災地は復興が進んだとはとても言いがたい状況です。大熊町や双葉町の復興拠点予定地のバリケードは外され、建物の解体が進み新しい町作りが進められようとしていますが、道を一本奥に進むと崩れかけた家が残っていたり、除染作業後の汚染土が入ったフレコンバックが山積みにされていたりします。

カリタス南相馬としてできることは、被災地の声を届けることにより現状をお伝えしていくこと、そして人と人との繋がりをお手伝いすることだと思っています。全国の皆様からの心温まる祈りとご支援のもと、一日も早く心の復興が進むよう、できる限りの支援を行っていきたいと思います。（所長　南原摩利）

新潟・これからも隣人として…

まもなく１１年目の３．１１を迎えます。初めの頃はまず被災地のためにと意識していても、年月の経過とともにそれぞれの状況の変化やコロナ禍への対応もあり、新潟では多くがグループとしての支援活動を終了または縮小しています。

しかし、３月１１日を忘れず祈り続けようという思いは多くの人が持ち続けています。暗闇に輝く光であるキリストを見つめ、隣人としてご一緒に歩んで行きたいと思っています。

（新潟教区信徒　野村みか）

つながる みちのくの輪

特別企画　ボランティアさん大集合～11 年目の分かち合い～

隔月で開催している「カリタスみちのくの集い」、当初は２０２１年３月まで行われていた「全ベース会議」を引き継ぐ形で、東北で活動を続けているカリタスベースのスタッフたちが集っていました。メーリングリストで参加者を募るうち、さまざまなご縁でつながってくださったボランティアさんも参加してくださるようになりました。ご参加くださった方の感想を紹介します。

「最近はボランティア活動にうかがう機会もなくなり、東京から大好きな東北の海に想いを寄せるだけの日々が続いていたところにお声がけを受けての参加でした。皆様の活動のお話を聞き、想いと意志の強さ、実行力に圧倒され、学ぶことの多い時間を過ごさせていただきました。何か自分でもできることを探して、引き続き繋がっていきたいと思います。」

「会社も退職し、ようやく自由にボランティアもできると思っていたのに、それも叶わず、なぜこのタイミングだったのかと、コロナを恨むばかりです。防災の取り組みができていない私たちの地域、皆様の取り組みがお手本です。」

「お話をうかがうたびに、時間というものは分断されているのではなく流れているものなのだということを、再認識させていただいているように感じられます。震災とは過去の出来事で遠く思いをはせるものなのではなく、まさに対峙する現実とつながっており、心をかけていらっしゃる方がたくさんいるということ。私自身、忘れがちになる当たり前のことに気づかせていただけるこの集いは、ひじょうに貴重な価値あるものだと強く感じます。継続的に参加させていただければ嬉しいです。」

さまざまな場所で活動していたボランティアさんたちを主役に、お話を聞きあえたら…と、３月１２日には、カリタスみちのくの集いの特別版として「ボランティアさん大集合～１１年目の分かち合い～」を企画しました。参加者を募ったところ、５０人が集まりました。

一人２分というごく限られた時間の中で、ボランティア活動の中での忘れられない体験、現場を見て受けた衝撃、ボランティア先で「おかえりなさい」と声をかけてもらえる喜び、活動への思いなどが話されました。また、小グループでの分科会も行い、短時間でしたが交流をすることができました。

発災から１１年が経ち、この２年はコロナ禍が続いている中、被災地への思いを抱き続けていてくださっていること、つながり続けたいという思いが、画面の向こうからひしひしと伝わってくる２時間半の分かち合いでした。

「カリタスみちのくの集い」は、コロナ禍のためにオンラインでの開催が続いていますが、思いを寄せ続けてくださる方々、そして地道に活動を続けている仲間たちが集い、つながりを広げていくことができるよう、これからもさまざまな形を探っていきたいと思っています。

みちのく世話人のつぶやき

「こころなないろ」第２号、いかがでしたか。カリタスみちのくが立ち上がって１年が経ちます。隔月 11 日には、カリタスベースの活動報告を配信しています。メーリングリストへの登録は、カリタスみちのくのメールアドレス cmichinoku@gmail.com へご連絡ください。報告はカリタスみちのくの Facebook ページにも掲載しております。これまでの報告は、こちらの QR コードからもご覧いただけます。 →

ところで、このニュースレターのタイトル「こころなないろ」の最初の「こ」と最後の「ろ」を取ると…！？　お気づきになったでしょうか！？　来年こそは「コロナナイ」世の中になりますように。